

交流の重要性

環境・エネルギーチーム 名古屋大学農学部 4 年前田稜太

1. はじめに

3月18日から3月24日にかけて、訪台団の一員として台湾の土地を訪れた。これを経て、私が台湾に抱いていた印象は180度違うものとなった。台湾を訪れた感想を述べるにあたり、最初にしたのは、日本と台湾の文化の共通点と相違点である。日本と地理的に近い台湾ではあるが、実際に訪れてみると、食文化、言語、歴史観などにおいて独自の特徴を持っており、それらを肌で感じる事ができた。

2. 気づいたこと

台湾の食文化は特に印象的であった。小籠包や魚肉飯、牛肉麵といった代表的な料理は、日本でもよく知られているが、現地で食べるとその味わいが格別であった。特に、発酵食品の豊富さには驚かされた。台湾

では発酵食品が健康維持に役立つとされ、食卓に欠かせない存在となっている。このような食文化の背景を知ることによって、台湾の食文化に対する理解が深まった。

また、台湾の歴史的な遺産や観光地も非常に魅力的であった。台北の大溪老街を訪れた際には、伝統的な台湾の建築様式や王宮文化を学ぶことができた。一方で、近代的な都市開発が進んでいるエリアも多く、伝統と現代が融合した街並みが印象的であった。例えば、信義や油化街のような若者文化が発展した地域では、最新のトレンドを反映した店舗が並び、台湾の流行を肌で感じる事ができた。

言語の面では、中国語を実際に使う機会が多くあり、現地の人々との交流を通じて言語の大切さを実感した。特に、簡単な中国語のフレーズ

を使うことで、現地の人々との距離が縮まることを感じた。台湾の人々は親切で、日本人に対しても温かく接してくれることが多かった。特に市場や飲食店では、現地の人々とのコミュニケーションが楽しく、台湾の文化により深く触れることができた。

さらに、台湾の歴史について学ぶ機会もあった。戦争や日本統治時代時代など、日台関係に関わる歴史は複雑であり、現地の博物館や資料館を訪れることで、日本との関係について改めて考えさせられた。歴史的な背景を理解することで、現在の台湾社会の成り立ちや、日台関係の課題についてより深く知ることができた。

事前研修に参加した際、訪台団に参加する大学生がみな台湾に関心を持っているか、台湾に関する学習をしていて驚いた。私は中国語もろくに読めず、台湾に関する知識も高校で学習したものを最後にメディアなどからしか得ていなかった。そもそも、他の人とスタートラインが違うことに参加してから気づき、怖気付

いた。自信がないまま当日を迎えた。しかし、不安はなくなった。交流した台湾の大学生や、訪問先の企業の方、宿泊先だけでなく、一般市民の方も同じだった。もちろん、同行してくれた訪台団の友人に助けられた部分が大きいですが、誰もが親切丁寧に対応してくれた。この国に初めて直に触れた私にとって、とても嬉しい出来事だった。今回の訪台団では2つの現地の大学を訪れた。国立台湾大学と台湾科学技術大学である。国立台湾大学の学生はどの方もとても日本語が流暢で驚いた。コミュニケーションは容易に取れ、台北での生活を詳しく聞くことができた。台湾科学技術大学での交流は逆に、日本語はあまり通じなかった。その代わりに英語が話せたので英語を通じて会話することができた。英語の重要性を実感した瞬間だった。

3. 今後について

今回の訪台団を通じて、私は多くの貴重な経験を得ることができた。その中でも、文化交流、国際的な視点の獲得、言語能力の向上、そして人脈形成という四つの点が特に重要

だと考えている。これらの経験を今後の人生やキャリアにどのように活かしていくかについて述べたい。

まず、文化交流を通じて得た知見を、異文化理解の促進に役立てたい。台湾の歴史や伝統文化、現代社会について現地で直接学ぶ機会を得たことで、日本と台湾の共通点や相違点をより深く理解することができた。この経験を活かし、将来的には日台の架け橋となるような活動をしたい。例えば、日台交流イベントの企画や、日本の若者に台湾の魅力を伝える活動に携わることで、より多くの人が台湾に興味を持つきっかけを作りたい。

次に、国際的な視点を持つことの重要性を強く実感した。台湾の人々と交流する中で、日本とは異なる価値観や考え方に触れ、視野が広がった。この経験を生かし、国際的な場面で活躍できる人材を目指していきたい。具体的には、異文化間コミュニケーションの能力を磨き、将来的に国際協力やグローバルビジネスの分野で貢献できるよう努めていく。

また、訪台団を通じて現地語の重要性を再認識した。現地でのコミュニケーションでは、中国語を学ぶことが相手との距離を縮める上で大きな役割を果たすことを実感した。今後は中国語の学習を継続し、より円滑なコミュニケーションができるよう努力する。さらに、語学力を活かして通訳や翻訳といった仕事に関わる可能性も視野に入れている。

最後に、人脈形成の面でも大きな収穫があった。訪台団を通じて、台湾の学生や企業関係者と知り合うことができ、将来的な協力の可能性が広がった。これらの関係を大切に、継続的な交流を図ることで、新たなプロジェクトや共同研究の機会を模索したい。また、訪台団の経験を SNS やブログで発信することで、より多くの人に台湾の魅力を伝え、関心を持ってもらえるような活動を行いたい。

訪台団で得た経験は、私の人生やキャリアにおいて非常に大きな意味を持つ。異文化理解の促進、国際的な視点の獲得、言語能力の向上、人脈形成という四つの観点から、今後

の活動に積極的に活かしていきたい。この経験を通じて培った知識やスキルを社会に還元し、日台の交流をさらに深めることが私の目標である。

4. 終わりに

私は直接台湾を訪れる機会を頂き、韓国文化を学び、伝統を見て経験し、韓国の食事を食べ、交流し、間接的な情報から得るものではない自分自身のまっさらな「台湾に対する印象」を捉えることができた。この経験は、何にも変え難い有意義な時間であったと自信を持って言える。また、今回訪台団という日本の代表として台湾の地に立っているのだという重みを感じた。この言葉を胸に刻み、再びこの一週間を振り返ると大変素晴らしい日々だったと思う。そして、これからの私の人生にも多大な影響を与えるものである。最後に、今回この訪台団の企画を遂行するために尽力してくださった立花様、インストラクターの皆様、同じ団員のメンバー、全ての関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

(2668 字)

写真



合宿中の発表の様子



台北101付近のショッピング街にて